

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ました山口良広です。今回の一般質問では、元気で武雄に住んでよかったと言われるような武雄をつくるためにはと、私なりに議員として、行政視察や政務調査費を利用して、徳島県の山川町などに行ってきました。特に徳島県では、1泊してその地域の人たちと交流してきました。山川町でいえば、80歳代の人がパソコンを使いこなしながら、山などから葉っぱなどを取ってきて、それを料理の飾り物として利用してもらうために、全国の市場に出荷する。それでお年寄りの夫婦で500万円から600万円稼いでいる人もいます、お年寄りの人が中心で頑張っていると報道されています。

いざ現場に行ってみると、確かにパソコンを使いながら、じいちゃん、ばあちゃんが山などに行って、葉っぱを集めているのはお年寄りです。しかし、その品物を発送したり全国の情報を整理したり農産物の直売所、地産地消のレストラン、ごみゼロのリサイクルセンターで働くのは若者です。そんなみんなが生き生きと働いているのが現状です。

残念ながら1泊ぐらいの研修では若者の魅力、元気に目的を持ってその若者が定住していることを知ることはできませんでした。でも幸い、レモングラスを通じ、地域の横井さんと親しくできました。ぜひ彼との交流を大事にして、武雄の発展に寄与できればなど頑張っていきたいと思っております。

では、通告に従って質問したいと思います。先ほど16番樋渡議員から長崎新幹線の進捗状況についてはお聞きしました。その中で私はこのフル規格とフリーゲージトレインについて質問したいと思います。そんな中で、この長崎新幹線のフリーゲージトレインを含めて、どういうふうな路線になっているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

お答えいたします。

フリーゲージトレインでの車輪幅での鉄道につきましては、鳥栖駅から長崎駅までがすべてでございます。車輪幅については1,067ミリということでありまして、フル規格とは約400ミリ程度の差があります。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、鳥栖から長崎までをフリーゲージトレインで1,067ミリで全部を工事するというふうなことになったわけです。今度、武雄から諫早までが新しく工事が始まるわけですが、この区間も1,067ミリでやるということですかね。その場合、トンネルとか橋あたりはフル規格の工事があるというふうなことを聞いたわけですが、その点どうなっているのでしょうか。

か。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、武雄―諫早間につきましては、新たに高架をつくるわけでございますけれども、トンネル及び高架橋につきましては、フル規格での施工ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私は財政の面とか、いろんな問題がありますので、鳥栖から長崎までフル規格でやりなさいとは言いません。しかし、今後、一遍レールを敷いてしまったら、1,067ミリが1,435ミリに変わり、フル規格の路線になるということは到底無理だと思うわけです。この場合、ぜひフリーゲージトレインでやってもらって、将来、財政的に有利になり、日本が大きく変わったときには、長崎までの幹線というものがフル規格になる可能性もありますので、ぜひフル規格での線路というものができないかなというのを思うわけですが、市長どう思われますか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

夢のある御提言だと思います。これについては、今、計画どおりに進められていることでもありますので、その進捗状況を見ながら、また国に対して申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私は新幹線特別委員会のメンバーの一人として、先般、2月4日から5日にかけて、九州旅客鉄道会社の小倉工場のほうにフリーゲージトレインの車両を見に行ったわけです。そこで私はこのフリーゲージトレインについて、ぜひ武雄でいろんなことを進めてもらいたいということで考えましたので、ちょっと私の意見を述べたいと思います。

フリーゲージトレインとは、車間を線路幅に合わせて車輪の左右間隔を変えることができる列車のことです。その技術開発が日本で1カ所、小倉のJR九州小倉工場で行われています。しかも世界ではスペインだけがこの制度を取り入れていまして、そこでは台車を20分かかって車両ごと車の固定を変えるというような方法で行われているわけです。しかし、JR

九州の小倉工場では、JR九州やJR東日本、JR西日本、また川崎重工など、鉄道輸送に関連する十数社の出資で設立された組合の中で、6人の侍がフリーゲージのプロジェクトに頑張られておりました。私はメンバーと一緒に見て、すばらしい列車だと思っています。

その方式というものは、50メートルの区間を時速10キロぐらいで走行中に車輪の幅が変わるという画期的な方法でした。それが実用化されれば、新幹線と在来線の垣根が取り除かれ、日本中の鉄道がつながるといことです。新幹線と成田の国際空港、名古屋の中部国際空港や大阪の関空と、電車と同じく新幹線が飛行場で交わるのは夢ではありません。これが実用化されればすごいものです。私はこの話を武雄にどう生かすかということで私は考えました。

フル規格で鳥栖から長崎まで通すのも一つの方法でしょう。しかし、それは財政的にも今進んでいることを考えれば無理です。工事が行われる武雄から長崎の間を1,067ミリの在来線規格でなく、1,435ミリの新幹線規格でつくってもらふこと。す。 (発言する者あり) ということは、そうなった場合、長崎まで行く新幹線は武雄に絶対とまらなくちゃならないということになるわけです。今のままではフリーゲージトレインの変更は鳥栖だけですもんね。鳥栖で在来線に乗って、武雄でまたフル規格の線路に乗るといことは、長崎の新幹線は全部武雄にとまらば先に行かれんということになるわけです。それが武雄だと思っています。そうすることにより、武雄は全車両がとまり、またこの武雄―嬉野間の工事を早目にしてもらふこととともに、先ほど松尾初秋議員が言われましたように、在来線を安心・安全にするためには、踏切の安全対策も大事だと思います。それをしながら、なるべく早い時期に複線化をしてもらふ。そして既存の電車が通らない区間で思う存分試験走行をしてもらいたいということ。す。

試験走行について、6人の侍のプロジェクトチームの一人に聞いたわけですけど、私たち新幹線特別委員会のメンバーに見せてもらった試験用のフリーゲージトレインは、現在、南小倉駅と日豊本線を使って、深夜、水曜と日曜日の夜、一般貨物車を避けながら在来線での試験試行のデータを集めています。それが済むと山口県岩国市を中心に、山陽新幹線でレールを使い、これまた深夜に新幹線の運行に支障がないようにして行われるそうです。そして最後に、新幹線レールと在来線レールを使い、フリーゲージトレインの車軸の移動実験と耐久性のデータとりの研究をしなくてはならないとなっているそうです。

そうなった場合、この試験コースは今のところ日本にはないし、まだできてもないということ。す。 決まってもいないということ。す。 では国内でこの試験ができないと、この試験ができる線路がなかったらどうなるんですかとお尋ねしました。すると、「私の個人的な意見ですが」と前置きされて、「以前、フリーゲージトレインを開発するときには、アメリカにある山の手線のような周囲コースの中で、そこでスタッフ100名以上が参加し、大規模な工事をやって、何年かかってやるようになるんでしょうね」とのこと。す。「でも、それだけの予算がつくかどうかは疑問ですね」と寂しくしょんぼりと言われたのを覚えていま

す。そして、「ぜひ、この試験コースを今言ったような形で武雄につくってくれませんか。そしたらフリーゲージトレインは世界に羽ばたくようなすばらしい鉄道となりますよ」ということを彼と話したのです。そうすることにより、武雄は先ほど言ったように、長崎への新幹線は全部とまるし、新しいもの見物の観光客は武雄で見ることができる。そんなことを私は夢見て、このフリーゲージトレインの開発と武雄から諫早までの新しい路線をフル規格でやってもらうことができないかということ考えたわけです。ぜひこの点は私も大きな夢ですけど、行政としてどういうふうな考えを持たれるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

それではお答えします。

議員おっしゃるとおり、私はまだ試験の現物を見ていませんけども、聞くところによれば、1回速度を緩めて、それで車輪を変更するということであります。議員も御存じのとおり、新幹線が何便とまるかというのについては、まだ決定をしておりません。そういう意味では、議員の御主張されるように、武雄から諫早までがフル規格でできることによって、すべての便がとまるということであれば、ぜひとも機会をとらえて、国・県のほうに要望をしていきたいというふうに思っておるところです。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私は市民病院問題では、なぜあんな病院が必要なのかということで行ったわけですけど、現場に実際和白なり行橋に何遍か通っているうちに、ああこんなものが武雄にできればすばらしいというものを感じたわけです。今、この新幹線のフリーゲージトレインの現場を見たのは特別委員会のメンバーだけです。行ったメンバーはだれもがすばらしいプロジェクトだということを感じたと思います。これをぜひ市長もいろんな方も見に行って、こういうふうな形で武雄に導入されれば、西九州の拠点として武雄が発展するんじゃないかと思っております。どうぞよろしくお願いします。

次に、観光政策についてです。

2月には飛龍窯祭りやモーターショーなど、いろんなイベントがありました。また、温泉通りではおひなまつりなど、いろんなことが行われ、武雄は元気だなということを感じたわけです。その概要がどんなものであって、どういうふうな方が見に来られたか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねのイベントでございますが、2月14、15、土、日ですが、これについては、飛龍窯の灯ろう祭りと、それから保養村でのモーターフェスタということで、PRをしております。県内外のほうにPRをして、2月14日、これは午後から夜中にかけて、灯ろう祭りをしたんですが、ちょうど2月14日はバレイタイムデーということで、その企画もしまして、火柱とか、あるいは約1,000個の灯籠を炊きまして、幻想的な雰囲気で大変好評を受けております。来場者については5,000人程度が来てもらったということで考えています。

それから、2点目の保養村のモーターフェスタについては、翌日の2月15日に開催しまして、来場者については、先ほど市長が言いましたように、約1万人のお客さんがあったということで、自動車については、国内外のいろんな珍しい車が100台程度宇宙科学館の駐車場に集まってもらったということで、そのときは地元の物産の販売とか、いろんなイベントをしまして、大好評だったと思います。

それから、温泉通りで開催されましたひなまつりでございますが、2月14日からきのうまで開催をされていまして、これについて、焼き物とか、いろんな端ぎれとか、そういう形でひな人形等が展示をされています。それから、料理長自慢のひな弁当とか、そういうのも出して大いに好評を得たということ聞いております。数について、今のところまだ聞いておりません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

各イベントの評価であるんですけども、これらについては大田副市長が中心となって、県内外に非常に幅広くPRをしてもらったこと。そして、これは武雄の特質だと思いますけれども、今、多くの人たちがブログを持たれて、私も含めて持っていますけれども、この方々が一斉に飛龍窯の灯ろう祭りであるとか、モーターフェスタを盛んに書いていただいたこと、「ブログを見て来ました」という方々が、私が知る限り数人いらっしゃいました。それと、もう1つ特筆すべきなのは、この飛龍窯の灯ろう祭りは、これはうちの職員が中心となってポスターをつくる。それとモーターフェスタは、若木の中野君、中野デザイン企画ですね、非常にこれは高い評価をいただいています。ですので、この情報発信の量とポスターの質と、そして市民総出でいろんな情報発信をしていただいた結果、多くの皆さんたちが来ていただいたと。

それと終わりにしますけれども、飛龍窯の、特に灯ろう祭りについては、これは地元の皆さんたちの献身的な消防団も含めて御協力があったということ、そしてもうこれが去年お越しいただいた方がまた来ていただいているということで、非常にリピート率が高くなってい

ること。そういった意味からすると、非常に特に飛龍窯の灯ろう祭り、それに付随するモーターフェスタについては、これは武雄が誇る祭りに転化し得るのではないかというふうに率直な評価をしております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ありがとうございます。今、いろんな祭りというものが情報発信というものが大事に行われたということです。私もいろんなことで思ったわけですけど、ポスターもこの程度張って、ほんなこてお客さんの来んさろうかにかあて正直言って思っておりました。しかし、今、情報発信という言葉があったわけです。情報発信というものはすばらしいものだなということをつくづく感じたこのイベントでした。

その中で私は、観光ということを考えれば、市内にある観光スポット、今現在、川上の淀姫神社さんや若木の大楠、飛龍窯も含め、北方なり山内、いろんなものがあると思うわけです。それらを含めて、そこまでの公的観光バスや公的な路線バス、また観光タクシーや大型タクシーを含めての観光コース、また観光マップ等の整備、また運転手さんたちのサービスの講習等、研修あたりがどういふふうに行われているか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

市内の観光コース、それから観光マップの整備状況でございますが、まず、観光のコースにつきましては、これは合併したときに、合併の交付金を使いまして、パンフレットをつくっております。その中で5つのコースがございまして、まずは温泉を中心にした「そぞろ歩きコース」というのが1つございます。それから武雄は焼き物のまちですので、焼き物編として「アートコース」。それから3つ目に、これは黒髪山周辺をめぐる「ロハスコース」。それから4つ目に、これは自然・歴史・長崎街道編ということで「ロマンコース」。それからもう1つは御船山・武雄温泉保養村周辺をめぐる「ネイチャーコース」、自然コースでございます。

それから、あとマップでございますが、これについては観光協会、あるいは市がつくったいろんなパンフレットの中にいろんな観光地を載せたマップをつくっております。

それから、観光地をめぐる、そういう路線のバスとか、そういうのはございませんけれども、そこに市内の旅館、ホテル、それからタクシーの運転手さん、そこら辺を集めて研修会等しながら、そこら辺のPRに努めるということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をいたします。

私は観光のかぎの一つとしてタクシーがあると思います。そういった意味から、先般、武雄タクシーさんに講演で呼ばれましたので、そのときのお願いとして、タクシーの後ろの座席のところ、あそこにパンフレットとかランチ本とかを置いていただけないでしょうかということをお願いしたら、快く置いていただけるということ。そしてこれは金沢の21世紀美術館がまさにそういう取り組みをしています。何かイベントがあるときには、タクシーの後部座席の前のところに、例えば、5月10日から15日まではこういうイベントがありますとかというのが頻繁に変わっていくということがありますので、私はこれは武雄タクシーさんから呼ばれてお話ししたことでもありますけれども、そのタクシーの持つ有用性というか、そういったことについても、ぜひまた協力をお願いしたいというふうに思っております。

武雄の場合、思った以上にタクシーで観光地をめぐる方が去年とすると、体感温度ですけど、ちょっとふえたなというふうに思っておりましたので、さらにそれを伸ばしていくということで考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、観光タクシーの話が出たわけです。私も先ほどの新幹線特別委員会の話じゃありませんけど、出水市のほうに行きました。そこでは、そのタクシーの運転手さんもすごく丁寧に、すごく我々にわかりやすく説明してもらいました。これでこそ観光地だなということをつくづく感じたわけです。こういうものがぜひ武雄でも充実すれば、もっとリピーターもできるんじゃないかと思っています。

それと同時に、宇宙科学館、先ほどモーターショーの話がありましたけど、そのときに宇宙科学館前を利用したわけですけど、日曜日には800人から1,000人ほどのお客が来る。そして今度のモーターショーの場合、駐車場を使うから、少なくともすみませんというような状況で行われていたわけですけど、それにも増して宇宙科学館というものはすごいもんだなと思いました。大入り満員でたくさんの方が宇宙科学館に見えました。そんなときに、宇宙科学館のメンバーの人がおられましたけど、せめて土曜、日曜、祝日ぐらいにでも路線バスあたりが動いてもらえば、武雄の観光地にもっとお客が集まるのになというふうなことを言われたことを思い出します。ぜひそういうふうな機会がありましたら、路線バスもうまく利用したような形で観光客の誘致というものに考えてもらいたいと思います。よろしく願います。

次に、何度もなりますけれども、モーターショーのことで、久しぶりに1万人以上のお客

というものが来たというイベントに行ったわけです。その中で行列のできる店というものを久々に見ました。カレー屋やら、たこ焼き屋、梅が枝餅の店にはでき上がるのを待つか待たんごとしてお客が、食に飢えておる人が（笑い声）並んできたわけです。食糧難が来らないば、こいが現実かにはあて、私は農業者として喜ばしいと感じたわけです。こんなときに、こんなイベントの中で武雄の町ん中じゃなくても、どこかでもいいですけど、いろんな食事を提供するお店というものがあるわけです。そんな方に呼びかけて、本物の武雄の味というものを何か、以前はちゃんぽんのまちでまちづくりをしようとかもありました。今度はそういう形でまち独自の味というものをつくって、既存のお店の方をお願いして、その方も幾らかの所得の増大にもつながるんじゃないかと感じたわけです。梅が枝餅さんが私たちにそのときに言ったわけですけど、「小麦粉を担いできて、その次にはあんこを担いできて、その次は水ば持ってきて、おれは一日じゅうきやあなえた」と言いながら、そのモーターフェスタの中で、これは1カ月分以上のもうけもあったばいということを言われたわけです。それだけ武雄ではいろんなイベントがありますが、食事といえば、ファストフードなどの本当の地元の方の経営でのお店というものが、こういうふうなイベントやせっかくの催しの中で生かされないなあということをつくづく感じるわけです。ぜひその点も今後、そういうふうな企画があった場合には、率先してそういうメンバーにも参加してもらえばなと思うわけですけど、市長どういふふうな考えをお持ちでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうそのとおりでと思いますね。ただ、あれは牟田副議長が進められた中で、いろいろ話を聞いていたんですけども、まさか1万人集まるとは思いもせんやったですね。それはやっぱり天気、そして中身が非常によかったということと、場所がよかったということだというふうに思っています。そういう意味では実績ができましたので、広く飲食業組合の皆さんたちにも呼びかけをしたいというふうに思っておりますので、私が思ったのは、モーターフェスタが9.5、0.5ぐらいが食の感じだったのが、少なくとも今度は6・4ぐらいにいけるようにしたいというふうに思っています。しし汁を食べに行った店は12時から開くはずだったのに、もう11時に売り切れて、私最後の1杯やったですね。だから、それぐらい人がお見えになられていました。そういった意味で、これはごらんになられてと思いますけれども、またことしか来年やろうと思っておりますので、ぜひ飲食業に携わる方々には奮って参加してほしいというふうに思っております。あわせて天気がよくなることも祈念を申し上げる次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

る話のあちこち飛びながらでしたけど、私は長崎新幹線というものが開通したときには、いろんな夢がこの新幹線にあると思います。ぜひ市民の力を一つにして、これを起爆剤にして、武雄が発展することを期待したいと思います。それに何らかの寄与、参加できれば幸いですと思っております。

次に、雇用促進住宅の存続についての質問です。

雇用促進住宅とは、どんな住宅で、県内を含め状況はどうなっているのか。また、この雇用促進住宅と市営住宅の違いをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

中野にあります雇用促進住宅でございますが、平成6年に建設されております。80戸の住宅でございます、雇用保険の加入者が入居できるということになっております。

今の入居状況でございますが、80戸に対して54戸、入居率が67.5%でございます。公営住宅と違うのは、いわゆる雇用促進住宅でございますので、市は一切管理しないということで、言われているように、市営住宅であれば国からの交付税がございますが、それが無いということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

最初に言いました雇用促進住宅がどんな住宅で、県内で正月ごろの新聞でやったように、いろんなところで閉鎖あたりが行われるというふうな話が載っていたわけですけど、その点の県内の状況というものをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

県内には雇用促進住宅につきましては、14施設ございます。各市町に対して廃止等々の打診があつているようでございますが、それは建設時期等々でそれぞれ違つておまして、一律に廃止するとかいうことじゃなくて、各市町の状況に応じて打診の内容は違つているというような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、県内には14施設があるというふうな話ですけど、私が調べた中では、今現在、間違つ

ているかも知れませんが、牛津や小城、多久あたりが廃止の方向で進んでいるという話も聞くわけですが。そんな中で、私は中野にある雇用促進住宅について、皆さんとともに議論したいと思います。先ほど世帯数が80戸のうち54世帯が現在入っておられると言われました。しかし、16年2月、以前までは、ほんの二、三年前までは四、五戸しか空いていない状況でした。今現在、54世帯の中で大人が108名、子どもが80名おられます。そのうち小学生が26名、中学生が6名、高校生が3名。小学1年生に至っては6名です。朝日小学校の小学1年生のうちの実に1割の方がこの雇用促進住宅におられるというのが現実です。それは54世帯と減った中での数字です。これが80世帯の平成16年2月になりますと、77世帯。大人が154人、子どもが115人と、たくさん子どもたちがこの雇用促進住宅のほうでは住んでおられます。そして先ほど言われましたように、雇用保険者じゃなからんば入れないというふうな条件がある中で、ここを追い出されたらどこに住むんですかというふうな意見をよく聞くわけですが。ぜひこれを存続してもらいたい。

それで今、この状況を私も目の前で見聞かしていますので、見聞きしているわけですが。月1回、第1日曜日には全戸、妊産婦と第2親等までの結婚式、葬儀がない限りは出不足金をもらってでも掃除をするというふうなルールがあります。そういう形の中で、環境はきれいに、ごみ一つないというのが現状です。そして、夏とクリスマスには住民総出のイベントが行われます。夏には盆踊りなり、カラオケ大会が、僕らにも声をかけてくれれば行くのになあと思うような形で行われます。クリスマスも同様です。そして、その中から、そういうふうなメンバーですので、中野地区といえ、荒踊りが盛んに行われます。この荒踊りでもどうしても子ども浮立というか、銭太鼓、いろんな荒踊りの奉納があるわけですが、そこにも積極的にこの雇用促進の方の子どもさんは参加されるので、中野の区長さん、住民の方もぜひこれは存続してくれればいかんばいと。おろそかにして武雄は雇用の場ばつくて若者が定着するまちと言いながら、これを見捨てちゃいかんばいとということをよく聞くわけですが。

それと同時に、私の地域も今、住宅がぼちぼちふえてきております。そんな中で、この雇用促進住宅の出身者が4軒ほど来ておられます。その方たちを見ますと、この雇用促進住宅の中で先ほど言ったような清掃作業やいろんな地域でのイベントというものに積極的に参加するというのが、一番大事な新婚時代を、ここの施設の中ではぐくんでおられますので、うちにきは「公役がああばんた」と言うないば、「はい来た」と言うて来んさつごと、素直でいい家庭の家族の方がこの雇用促進住宅では育ちます。このことを企画のほうで話しましたら、存続運動——「こいば雇用促進事業団としては、いつまでも持ち置くことはないから、市なりいろんな民間等で検討しているもんね」という話を聞いたわけですが。ぜひこの施設は私が今言いましたように、すばらしい新婚時代の旅立ちの勉強の場だと私は思っています。ぜひこういうところは存続してもらいたいと思いますけど、市長はどう考えられますか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

雇用促進事業団のこの当該住宅については、庁内で激論を闘わせました。一つは、この物そのものが財政的に非常に大きな負担になる。購入そのものは5,400万円程度であります。ただし、そこにランニングコスト等を考えると、これは市民の皆さんたちの財政的な負担になるのではないかと企画サイド、財政サイドの声がありました。

一方で、本当にこれをなくすことが周辺住民の皆さん、あるいは地域の皆さんにとっていいことなのか。本当にこれをなくすことをした場合には、もう二度とこれは戻ってこないわけであります。そういった意味からして、非常に大きな議論を重ねてきて、私ども執行部といたしましては、基本的にこれは市が購入する方向で検討したいというふうに思っております。ただ、その上で、私どもといたしましては、これは議会の皆さんの声に耳を澄ませたいというふうに思っております。議会の皆さんたちが、いやこれは残すべきであるということ。それと特に地元出身の皆さんたちですよね、それともう1つが、地域の住民の皆さんたちの声に、やっぱりこれは耳を澄ませる必要があるだろうとは思っておりますけれども、基本的には購入の方向で検討をしたいというふうに思っております。これをしないと、今度、3月の末までに、市が機構に対して申し出をしなきゃいけないことになっています。

これをもししないということになると、今度、倍の1億円以上で民間に購入をしてほしいという公募、打診が参ります。これは多分ないと思います。今、これだけ不況で冷え込んでいる中で、あそこの中野の住宅を引き受けるところは私が聞く限りはないと思っておりますし、もしそれで最悪のケース、市が購入をしない、民間が購入をしないとなると、あそこは除却になってしまいます。更地に戻されてしまいます。そういった意味からすると、やはりここは市の役割として、雇用を守る、生活を守るという観点から、私は必要で、特に先ほどおっしゃいましたように、あそこは若い皆さんたちが多いんですね。そういう意味からすると、私はその周辺地域の皆さん、特に若い人たちが住んでいただくことによって、財政コストではあがなえない効果があるというふうに私は認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひその方向で検討してもらいたいと思います。私も平成6年ということで、あそこは地域では最高の畑作の野菜どころでした。それを武雄の雇用の場を守るために、ぜひ仕方なかということで用地交渉が行われ、地域住民の雇用が、今から発展するためには仕方なかねということで苦渋の選択をしたのもあそこの用地だと思っております。それを考慮されて、「公

団が、もうつぶしたけんが、更地になったばん」と言われれば、そのときは「元の畑に変えて返してくいやい」て言わなんごとなるわけです。ぜひその点も考慮されて、前向きに検討されることを期待したいと思います。

次に、農業問題についてお尋ねします。

そこでまず、農業問題で私は専門農家が今、一生懸命頑張っている中で、苦しんでいるということを現状を訴えながら、どうにかしてくれということをお話ししたいと思います。

まず、この前、佐賀農業賞の最優秀賞の受賞の祝賀会が農協のセンターのほうで行われました。この佐賀農業賞といえ、過去3年間、武雄から平成18年には、武内の酪農家であります古川幸典さん、朝日町中野のみつば会という集落営農、そして山口裕子さんも栽培されておりますちんげん菜部会がとりました。そして、19年には小池議員が組合長をされます橋下集落営農がとりました。そしてことは、私も以前はキュウリをつくっていたわけですけど、キュウリ栽培の農家の中堅であります山口仁司君がとったわけです。そんな中で、私もキュウリをつくっている仲間として大変喜んだわけです。

そこでちょっと時間はとりますけど、今、専門農家の置かれている現状というものを訴えたいと思います。その中で私はまずこのキュウリのことだけしかわかりませんが、私もキュウリ農業後継者としては3代目となるような古い産地です。そんな中で戦後から障子紙ハウスや木骨の木を打ってビニールを張りながらというハウス栽培が行われていました。それが昭和42年の年、大水害があり、圃場整備がされていない田んぼに、上から下へ棚田のごとく水が流れた大水害が起きました。そしてその後、水害の後片づけもままならないうちに、その後は日照りの干ばつです。そのときは突き井戸という簡単な井戸をあっちこっちに掘りながら、農家の人は水くみに明け暮れたのが現状です。それが終わると、次には2月、早朝まで降り続いた雪は10センチ以上積もり、昨日まで立っていた木骨ハウスは見事に押しつぶされ、一面の銀世界となったわけです。それでもおやじたち、先輩は、1本1本のキュウリにトンネルのようにビニールをかけ、こつこつとくいを打ち、木骨ハウスをよみがえらせました。そのようにしてキュウリ栽培は歴史をたどりました。

そしてその翌年、2人の先進的な農家が鉄骨ハウスと暖房機を導入され、見事な収入を上げられました。それに続けと次の年、18名の仲間が一斉に暖房機や鉄骨ハウスを購入したのです。私もこの年に高校を卒業したので、農業後継者資金を50万円借りて、鉄骨ハウスと暖房機を立てて、新しい農業を始めたのを覚えています。それから、農協や農業改良普及所の指導のもと、共同育苗や共同出荷、共同作業と、いろいろなものに携わりました。そして圃場整備が行われ、圃場整備では今までつくっていた泥が全部ひっくり返されるのが圃場整備です。それで武雄市内のいろんな畜産農家から堆肥を2トン車や4トンドンプを用いて土地に入れ込み、大型のユンボで天地返しをやりながらの土づくりを覚えています。

そういうふうな努力の中で、昭和57年には、佐賀県で初めての天皇賞をとったのも武雄キ

ユウリ部会です。そんな形の中で、一つ一つ努力しながら我々は専業農家としての道を歩いてきました。これはイチゴ農家でも、また養豚農家も肥育農家も酪農家も一緒だと思います。いろんな形で変わりながら、それは土建屋さんも大工さんでも何でも同じだと思いますけど、一生懸命努力して農業というものを確立したのが、今の現状ではないかと思っております。

そこで質問です。市内で農業収入を主としている農家の数は、平成元年ごろ、一番元気があったころと今では、どのように農業を主にして食べている農家の数は変わったのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

農家の数でございますが、平成元年はございませんで、農業センサスが1990年、平成2年度に出ておりまして、そのときの総農家数が4,231戸ございます。そのうちに専業農家が305戸、それから兼業農家が3,926戸ということで、最近では、平成17年、2005年のセンサスを見ますと、総農家数が3,410戸ということで、821戸の減となっております。平成2年に比べまして19.4%の減。それから、専業農家数については、変動がなくて305戸。それから兼業農家がさっき言いましたように、821戸減って3,105戸という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

平成2年と平成17年を比べますと、農家戸数で4,231から3,410と、19.4%の減少。そして専業農家がかくしくも305戸、305戸と、何も変わらない安定したものだという数字が出ています。ちょっとこれは数字のとらえ方にも問題がありますので、これをどうこうは私は言いません。しかし、農家生活を考えた場合、今、不景気のどん底の中で、農家だけが何か特別視されるように、仕事も農業の中に来なさいとか、いろんな風評の中で思われているわけです。

そんな中で、どうしても今、施設園芸や畜産と、本当に一生懸命頑張っている、後継者が育つ農業経営というものを存続させることが私たちの仕事だと思っております。そんな中で、農業振興政策イコール販売対策。農業で食っていきさえすれば、その隣に土地が余っていれば、「よし、おいがつくってくるっ」、ミカン山が収入にさえつながれば、「私がミカンを手入れして、もっと頑張っつくっさい」ということはだれでも言うわけです。しかし、それが収入につながらないから、だれも手を挙げないというのが現状じゃないかと思っております。

そんなとき私は、認定農業者の会の女性部の研修に参加しました。そこで、佐賀県農村女性指導士で、北方でイチゴをつくられ、ジャムの加工までしておられる岩橋さん、また宮原さんの発表を聞くことができました。そして政務調査費を使って徳島の山川町にも行き、こ

ここでは先ほど言ったように、いろいろなものを情報発信をしながら販売しているものを身近に見てきたわけです。

今からの農業振興をやる場合、どうやって農産物を販売するか、これは大事なことと思っています。その場合、現在、今、黒髪の里や物産館、またゆめタウンやAコープ等でEショップという形で販売もなされております。しかし、ひとつ天気がよくて、収穫が重なれば、豊作貧乏になって、お互いの値段を下げ合ったり、また人が置いているのにその上に置いたり、せつかく農家でできた野菜というものを嫌な気持ちで農産物直売所に持っていくのが今の現状です。

そんなことを考えるときに、先ほどの認定農業者の会の研修の中で宮原さんが言われました、「ぜひ武雄で農産物の集荷場ばつくってくれんね」と。そこに直売所は直売所に出しながら、農協に出荷し、それなりに金になるものはそこにしながら、しかし、今の農協出荷では品質がよくて、量がある程度あってこそ、市場流通に乗せるわけです。それまでのつなぎの区間としては、どうしてもいろいろなものを集荷場というもので集めて、それをどうにかやることをせんば農家は生きていくことができんよという話をよく聞くわけです。それをここで私は質問したいと思います。

そのような形で、私はぜひ武雄に農協などの民間の力をかりて、農産物の集配センターをつくってほしいということです。そして、武雄市内やその周辺でできたいろんな農産物を出荷してもらい、また畜産物は多久の食肉加工センターで処理してもらい、川良Aコープ等を利用して発送するなど、生産者みずからが単価を決めて販売する。当然売れないものが出るかもわからない。しかし、自分がつけた値段だからあきらめもつきません。また、希望する生産者は宮原さんが長年かかって育て上げられた福岡県内50店舗以上を持つ量販店に納入するもよし、レモングラスやイノシシを利用しようとしている料理屋さんや販売店からの引き合いも出てくるかもしれないし、また先ほどの情報発信ではありませんけど、ベンチャー企業としてネット販売をしたい人が生産履歴とともに農産物も販売を積極的に仕掛ける。また、給食センターなど、大量に扱うところからの引き合いも出てくるかもわかりません。そんな集荷場というものが、この武雄で農業所得の増大につながる一つの方法だと私は感じておるわけです。ぜひそういうふうな集荷場というものを武雄にもできないかなということを提案したいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

農家の所得につきましては、さきの議会でもお答えしましたように、武雄はかなり低いと思います。1戸当たりの農家の所得が300万円だったと思います。特に唐津の上場地帯とか、そういうところになれば、相当な開きがあるということで、とにかく収益性が上がる効率的

な農業をしないといけないということで考えています。

その中で、ちょうどきのう、4時ぐらいにテレビ見ておったら、場所はちょっと忘れましたが、I Tを使って直売所に野菜を納めるということで、常に携帯を見ながら数を把握して、数があと幾らかになれば、もうすぐ持っていくということで、どんどんもうかっているというふうなテレビがあっておりました。とにかく今からはI Tを使ったそういうのも一つの手かなというふうに考えています。

それで、お尋ねの集荷センターでございますけれども、これについては、市場と同じく入荷、出荷、そこら辺のシステムをどうするかということは一番問題だと思いますので、そこら辺について、もう少し研究をする必要があるというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ生産者団体と、先ほど言ったような先輩の指導農家と一緒にあって、武雄にふさわしい、武雄にできるような集荷場をつくって、今I Tを利用した販売というものが言われました。そんなものもぜひつながるようにしたいわけです。私たちもキュウリや山口裕子さんがつくってありますチンゲンサイとかイチゴとか、いろんなものが武雄市内にあるわけです。それを単品で、それだけ売るということはなかなか難しいところがあるわけです。だからといって、1人の人がいろんなものを年間通じてつくるというのは、これまた大変なことです。それを埋めるのが集荷場と考えたいと思っています。ぜひこれらをいろんな形の中でできるように持って行って、いいところにアピールできれば、元気のある農業ができるんじゃないかと思っております。よろしくお願いします。

次に、水環境保全対策について。

1月29日、佐賀市文化会館で行われました水環境保全対策の大会に参加しました。そこでは、事例発表も行われておりました。平野部では、重機を使っての泥土上げが中心です。そして花を植えたりしてのコミュニケーションが主体のような発表が行われました。しかし、山間部では、同じ用水路排水路整備事業でも大半が手作業です。そして、耕作放棄地対策にしても、平たん部と山間部では大きく違います。二、三年作付をしないと竹や樹木が覆いかぶさり、その根を掘り起こす作業から始まるのが耕作放棄地対策です。その割には、面積配分ということで、山間部ではどうしてもその集落に対する面積が少ないので、交付金も少ない。そしてそこに出役する農業者も年配者が多いと。なかなか苦勞しているのは山間部の農村地帯だと思っております。

そこで、今ここで言って、すぐ簡単に変わるとは思いませんけど、この水環境保全対策事業の交付金の配分というものをもっと考えて、面積配分でするでなく、農業用水の源は山とします。その山にも少しは計算に加えて、それを守るというのもこの水環境保全対策じゃ

ないかなと思うわけです。その点も含めて、この水環境保全対策事業の交付金の配分についての質問をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの農地・水・環境保全対策の交付金でございますけれども、これにつきましては、国のほうの基準がございまして、今現在、田で10アール当たり4,400円、それから畑が2,800円という基準がございまして、そういうことで市のほうでどうこうはできませんので、これについて要望が必要かと思いますが、今のところ、何ともしようがないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

この交付金の配付というものはしようがないし、それは事実どおりで仕方ありません。

そこで私は、この平たん部と山間部の地域の交流というものができないかと思うわけです。有明海の漁業者が海を守るために山に木を植えに行く。また、北方町医王寺地区には、竹を切るためにボランティアの方が集まって竹林を切って整備するというふうな、平たん部や都市部の方が山間地、山に入って、守り、竹や下草を刈り、どうにかして農業の源である農業用水を、きれいなものを安心して使われるように山を守りましょうという運動ができないかと思うわけです。そうすることにより、六角川下流の方がマイクロバスやトラックに乗って山間部に行って、そこで1日、竹や下草刈りをしながら過ごし、その後、海から持ってきたアサリなどとイノシシやタケノコをほおぼりながら交流をする、そんなことができれば、本当の農地・水・環境対策が地域間交流の中でできるんじゃないかと思っております。それをぜひ市長のアイデアとやる気で——やる気がないか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、やる気が出てまいりました。基本的にその交流というのは非常に大事だと思うんですね。ですので、その人員が移動するに当たっては、武雄自動車学校の自動車をぜひ御協力いただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

いろんな形で私でできる協力の範囲はやりたいと思います。（笑い声）ぜひそういう形で

私はこのすばらしい緑の山、そこで育つ農家の皆さんが元気になって、次の時代も子どもたちや孫が農業で育ち、武雄が元気になることを夢見て、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。